

# COVID-19下での基幹教育の取り組み

谷口 説男（九州大学基幹教育院）

2020年11月20日



九州大学

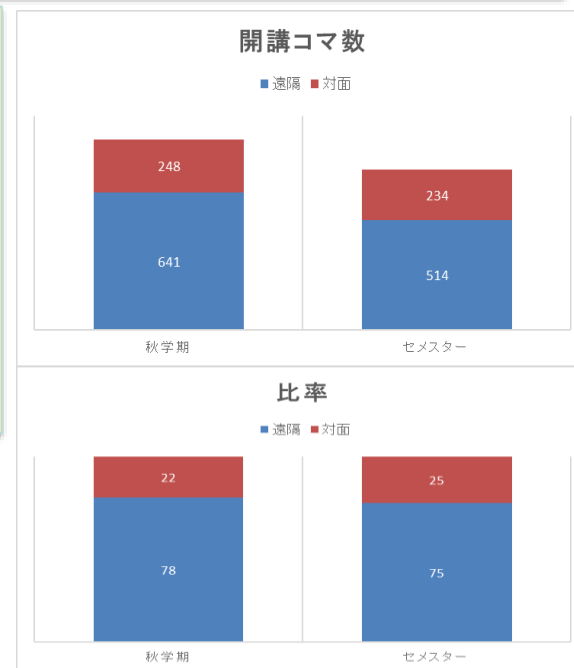


- ◎8月上旬に後期授業実施方針を決定する必要あり（コロナは↑傾向）
  - ▲大学方針「原則、遠隔授業を実施する」「部局長判断」
- ◎お盆休み前に方針の予告，8月末に正式通知
  - 必修科目で対面での開講が不可欠な科目は対面を実施する  
それら以外は遠隔授業とする
  - 基幹教育科目は1年生向けで，1年生からは対面授業の要望が強かった
- ◇感染予防策準備
- ◇対面講義の講義設計の見直し

## 後期に対面講義で開講している科目

- **課題協学科目 全学必修(アクティブラーナー育成)**
- **自然科学総合実験(基礎、発展) 理系必修**
- 身体運動科学実習 I ~ IV
- 健康・スポーツ科学演習
- 空間表現実習 I, II(ドラフター)
- 初修外国語(独, 仏, 西, 露)

- ◆ 初年次生2600人中1000人程度がキャンパスに
- ◆ 遠隔授業がキャンパスで受講できるよう教室を開放
- ◆ 午後の講義開始時刻を遅らせる（午前中自宅で遠隔授業を受講）



- ①換気：◎サーキュレーター（教室）  
◎空調設備ウイルス対策フィルタ（教室）
- ②消毒：◎除菌シート（机、椅子、共用物品等清拭用：教室）  
◎手指消毒剤（教室）  
◎外注業者(教室の机、椅子等、体育館内)
- ③検温：◎登校前と昼食前の検温の義務付け  
◎検温センター（登校後検温を実施できない学生用）
- ④通知：◎授業実施マニュアル（学生用，教員用）  
◎検温等確認ポスター（教室内），感染防止啓発ポスター(教室内外)

### (1)三密の回避

- ①受講者数は教室収容定員の半数以下
- ②学生の発声を伴う授業では，間隔2 m以上（最低1.5m以上）を確保し，真正面に配置しない
- ③教室の窓，ドアを開放する．困難な場合は30分おきに数分間の喚起を行う
- ④事情がある場合を除いてエレベーターの利用を控える

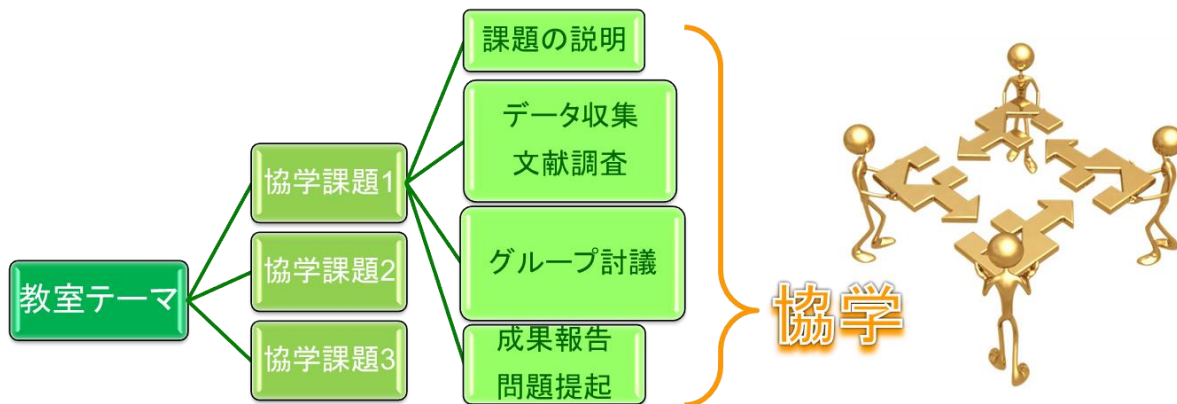
### (2)飛沫等による感染の防止

- ①マスクの着用(必須)，フェイスシールド，保護メガネの着用（必要に応じ），アクリル遮蔽板の設置
- ②マイクを使用する場合はマイクカバー（使い捨て）を装着
- ③学生が大きな声を発することのないよう指導

### (3)その他

- ①授業終了後，除菌シートで教卓を拭く
- ②TAに感染防止対策についての指導を行う

- 1クラス(150名) = 小クラス(50名) × 3, 文理融合(教員 & 学生), 2コマ連続/週
- 講義(20分弱) + 個人演習 + **グループ作業**



クラス1	ガイダンス	教員1 協学課題1	教員3 協学課題3	教員2 協学課題2	全体発表会
クラス2		教員2 協学課題2	教員1 協学課題1	教員3 協学課題3	
クラス3		教員3 協学課題3	教員2 協学課題2	教員1 協学課題1	
	1週 2コマ	4週 8コマ	4週 8コマ	4週 8コマ	2週 4コマ

- ◆ 一人の教員が担当する50人クラスを25人 x 2に分ける
- ◆ 通常の倍の机を固め距離を確保したグループワーク用の席に学生は着席（5人1グループ）
- ◆ 教員はオンライン配信（ライブ）も行いながら講義（説明20分）を行う
  - 教員がいる、いないに関わらず同じ説明（疑似的なハイブリッド）
  - ◎ 教員がいる教室は対面，いない教室は遠隔 ◎ 全学生がPCで受講
- ◆ オンラインで参加する学生
  - 講義開始前にオンライン受講を希望するかどうかを調査
  - 本人の申し出に応じオンライン，対面を決定（当日の急な変更にも対応）
  - ※合理的配慮申請のような厳密な手続きは取らず
- ◆ オンラインで実施する教員
  - 教員の個人的理由に応じオンラインでの実施も行う
  - 学生は完全オンラインでのグループワーク
- ◆ 対面だけの学生からなるグループは普通のグループワーク
  - オンライン学生がいるグループでは対面+遠隔グループワーク
  - ◎ Zoomのアブレイクアウト機能 ◎ 複数のTeams会議室の準備
- ◆ Tips : ◎ Moodleの活用 ◎ 図書館でオンライン閲覧可能な電子書籍の紹介 ◎ チャット機能 ◎ OneDrive（資料保管フォルダ） ◎ OneNote（共有ノート） ◎ スライド，コンセプトマップが共同利用可能なソフトの利用 ◎ ラーニングアナリティクス〈リアルタイム分析（データへのアクセス情報），リーディングパス機能（学生の理解度）〉 ◎ Teaching Fellowの活用

- ◆ 自然科学総合実験の内容に関わる3つの対面実験と3つのオンデマンド課題に交互に取り組む
- ◆ 対面講義は対面実験のみ（隔週）
- ◆ フェイスシールドの代わりに保護メガネを使用（安全のため）
- ◆ 教室定員の半分で実験を実施（このため隔週）
- ◆ 実験機材等は毎回消毒（技官）
- ◆ レポート課題の説明と提出はMoodleのコースページを利用（オンデマンド）  
※疑似ハイブリッド

### その他：

- ① ネット回線の能力が十分でない
  - 伊都キャンパスセンターゾーンは機材が老朽化
  - トラブルの発生が不確実に起きる
- ① 学生全員がオンラインでPCマイクを使うとハウリングが起きる  
(厳密に会話を制限したいと考えている教員)
  - ➡ヘッドセット（学生自前）
- ① オンライン申請をしていたが対面に切り替えた学生もあり

◎感染状況がおさまり平時の対面講義が可能であるという前提での準備

- ◆ 教室の収容人員の2/3の受講者数にして対面講義を実施する。

※2/3は試験時の教室定員とほぼ同じ。

- ◆ 遠隔講義開講を希望する教員は遠隔講義を実施する。

- ◆ 遠隔講義受講する学生のために同名の科目ごとに少なくとも1コマはオンデマンド型遠隔講義を準備する(上の遠隔講義を実施する教員のコマを当ててもよい)。この場合、すべての学部、学科の学生が受講することが想定されるため、時間割上は欄外表記とする。

- ◆ 対面講義をさらに遠隔でライブ配信し遠隔講義受講希望学生を受け入れることは推奨しない。ただし、このような講義形態を希望される教員による実施を妨げるものではない。

※機材の問題、講義の質の担保、また教員の負荷など問題が多い

※自宅からの講義が中心となる非常勤講師にとっては過負担である

- ◆ **現在、基幹教育科目実施班で検討中。**

【問題】対面講義と遠隔講義が混在することが想定される状況下で、学生たちに三密を避けてキャンパス内でオンライン授業を受講させることができる場所（空き教室）の確保

◎感染拡大時にはオンライン授業のみの開講とする